

取材対応者(予定)



笠岡 俊志 センター長

災害医療教育研究センターは、災害医療に関する教育や研究を推進するセンターとして、平成30年10月に熊本大学病院に新設されました。

その目的は、災害医療に従事する人材を養成するとともに、行政や地域医療との連携、市民への防災教育等を通じて災害医療提供体制の構築に貢献することです。文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択された「多職種連携の災害支援を担う高度医療人材養成」事業の推進が最も重要なミッションであり、熊本地震の経験を災害医療に携わる人材養成に活かしています。

本プログラムでは、急性期～慢性期まで長期的視野で活動可能な医療チームを構成する多職種の人材(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、栄養士等の医療職や行政担当者等)を養成し、地域における災害医療提供体制の発展に貢献します。

プログラム受講者へのインタビューも可能です。



多職種連携の災害医療
支援チームの養成

上記取組による成果・評価 など

本年6月23日にキックオフセミナーを開催し、本年度の教育プログラムの受講者数は77名(目標数25名)に達し、7月下旬よりeラーニングコンテンツを用いた講義を開始しました。さらに地域の医療機関の職員を対象とした災害医療セミナーや一般市民を対象とした市民公開講座を開催し、防災意識の向上に努めています。

参考URL

・災害医療教育研究センターHP

<https://kumamoto-dmerc.com/>